

新規事業

社会動向や環境変化を先読みし、将来のジェイテクト、およびグループの持続的成長の柱となる新規事業戦略を立案し、社内外の関係部門との連携をはかり、新規事業の創出に取り組んでいます。

2017年4月に「新規事業推進部」をトップ直轄の組織として立ち上げ、SDGs^{※1}をはじめとするグローバルな社会課題やニーズに応えるべく、新しい商品・ビジネスを展開し、新しい価値の創出に挑戦していきます。

新規事業に対する考え方・狙い

多くの社会課題への対応が重要視される現代、破壊的イノベーション(人工知能、IoT、デジタルイノベーションなど)や、開発プロセスの変革(オープンイノベーション^{※2}、リーンスタートアップ^{※3}、アジャイル^{※4}など)、新たなプレーヤーの参入といった大きな変革の時代を迎え、将来に向けての対応が必要とされています。将来の事業ポートフォリオ戦略をはじめ経営強化としての事業多角化、新商品展開もその一つであり、既存事業、新規事業ともに方向性の議論を繰り返してきました。その中で、新規事業としては、単なる事業ポートフォリオの追加といったねらいに限らず、既存プロセス・バリューチェーンの改革や人材育成、企業風土改革、新ブランドイメージの創生といったねらいも含めて、その役割を果たしていきたいと考えています。

当社の新事業の考え方は、社会課題ニーズの解決をはかるものとし、場合によっては社外シーズとの融合も含めて、社内シーズであるコア技術の染み出しにより、他社との差別化がはかれるものであるべきとしています。新規事業に取り組むにあたり、高い不確実性とコネクションのない未知な業界に対して挑戦していくマインドセットとモチベーションが重要となり、少人数体制での強みを活用しながら、業務の枠を定めない取り組みによる人材育成(広視野、高視座)に取り組んでいます。また、継続的にテーマを創出する仕組みを進めつつ、国内外関連会社・グループ部門、教育カリキュラム等から多くの新事業アイデアを集め、絞り込みながらスピード感ある事業化の推進と拡大をはかっていきます。

目指す姿

社会貢献、ジェイテクトおよびグループの持続的成長、人材育成

新しい価値(商品)の創出(他社との差別化・独自性)

PDCAスキーム: 企画、開発、生産準備、生産、ブランディング、プロモーション、マネタイズ、販売、アフター、マーケティング

- ①スピード
- ③自らの成長
- ⑤チームワーク
- ②提供価値の質
- ④情熱
- ⑥失敗を恐れない(挑戦し続ける)

社会課題(ニーズ)

SDGsへの貢献

- ・地球環境問題(温暖化、自然災害、汚染等)
- ・エネルギーの枯渇
- ・水・食料問題
- ・少子高齢化(超高齢化社会(医療・福祉・QOL^{※5})、労働人口減少、働き方改革等)
- ・大都市化と過疎化
- ・不安定経済と不均衡貿易



当社の強み(社内シーズ)

主要コア技術

- ・トライボロジー(摩擦、潤滑)^{※6}
- ・精密加工
- ・制御
- ・材料
- ・解析

モノづくり技術(生産、管理)

トヨタグループネットワーク
グローバル展開ネットワーク

オープンイノベーション(社外シーズ)

他社とのアライアンス

- ・当社の未保有技術
- ・世の中のイノベーション技術
- ・新規領域コネクション
- ・産官学連携
- ・コンサルティング企業活用
- ・ベンチャー連携

新規ビジネスモデル

※1 Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標/2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載される、持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成される国際的目標
 ※2 新技術・新製品、新たなビジネスモデルの開発に際して、組織の枠組みを越え、広く知識・技術の結集を図ること ※3 無駄を徹底的に排除し効率性に焦点を当て完成させる革新的な商品
 ※4 イテレーションと呼ばれる短い開発期間単位を繰り返し繰り返すことで、リスクを最小化する開発手法 ※5 Quality of Life: 人生の質、生活の質
 ※6 物体と物体の摩擦、摩耗、潤滑などを扱う技術領域 ※7 部品、機構を駆動させること

新規事業の具体的な事例

パワーアシストスーツ



ジェイテクトパワーアシストスーツ

少子高齢化、労働人口不足、労働災害の増加などといった社会課題に対し、当社の強みであるアシスト技術やさらには製造現場を持つメーカーである強みを活かし、現場作業者の腰の負担軽減、省力化、安全な職場づくり、多様な人材の活躍を支援する商品を開発し、発売しました(2018年8月)。更に、異なる作業ニーズに対応すべく、重量を約1/2に抑えた中出力タイプをラインアップに加えました(2019年6月)。今後も、市場でのお客様の声をフィードバックし困りごとの更なる提案を推しはかっていきます。

自立推進歩行器 「J-Walker テクテック」

高齢化社会が進行し、社会保障費・介護士不足が深刻な問題となっており、健康寿命を延ばす手段が求められています。自立歩行が困難になってきた要介護者の歩行支援を促し、自立度を向上することを目的に、トレーニング機能を



J-Walker テクテック

保有することを特長としています。ポールウォーキング研究成果に基づく腕振り歩行は、姿勢の良い歩行と高い酸素運動効果を得られます。更に安全・安心感ある電動アシスト機能、継続使用を促すデータ活用サービスにより、歩くことの楽しさを提供します。2020年春の発売を目指して、開発を進めています。

製造業クラウドマッチングサービス ファクトリーエージェント

これまで培った製造・加工技術、調達ノウハウ等の当社シーズと、より高品質、低価格、迅速な部品調達を求める市場ニーズとをウェブサイトを用いてマッチングさせる、製造業の受発注マッチングクラウドサービスの施行を開始しました(2019年4月)。利用者がサイト上で図面や加工要件を登録すると、オンライン上で受注候補となる企業からの見積りが比較でき、そのまま発注することが出来ます。すなわち見積り依頼から決済までをワンストップでご提供できるサービスとなります。



column

高耐熱リチウムイオンキャパシタ

世界初となる幅広い温度領域に対応するリチウムイオンキャパシタ^{※8}を開発し、2017年9月BR蓄電デバイス事業室発足。その後、商談活動の推進により2022年から立ち上がる自動車分野への適用と2019年10月から開始する本格量産を起点とした産業分野への適用を通じて、社会やお客様に喜ばれる様々な電源ニーズに対応した電源ソリューションを展開していきます。



リチウムイオンキャパシタ生産工場完成予想図

※8 正極と負極の電気二重層をもった蓄電装置(キャパシタ)の負極材にリチウムイオンを添加することでエネルギー密度を高めた蓄電装置